

教育相談だより

別府青山・翔青高等学校
第5号 2017, 2 発行

3年生自宅学習期間

青高最後の卒業生となる3年生が自宅学習期間に入ります。とはいえ、「自宅学習」ですからこれから受験の人もまだまだいますし、進学後に備えて部活動に参加する人もいます。「卒業」まで短い時間ですが、有意義に過ごして下さい。そして、青高で得た多くの人との繋がりを今一度振り返り、次のステージに進んで行ってほしいと思います。青高に来たから会えた人…これから進むそれぞれの道で、交わることはないかも知れないけれど、一つひとつがあなたにとっての確かな「縁」でありますように。

「S君の思い出」

～ スクール・カウンセラー、安達先生より ～

今から60年も昔の話です。

私が中学2年生の時に、同じクラスにS君という男の子がいました。学校ではいつも少しうつむき加減で、おとなしく一人であることが多い子でした。彼の名前が、その頃読んでいた小説の作家と同姓同名であったので、それを言いたくて話しかけました。彼はその作家の名前に何の反応も示しませんでしたが、それをきっかけに時々話をするようになりました。

当時は男子達の間には相撲が流行っていました。昼休みになると男子は運動場に飛び出てあちこちで相撲を取っていました。S君は家が農家でよく手伝いをしていたので、胸板が厚く鍛えられた体をしていました。時間があると二人で運動場に出て相撲を取っていましたので、いつの間にか仲が良くなりました。

彼は家の手伝いのためかよく学校を休み、服装も質素で文房具もあまり持っていませんでした。彼のために、家にあった古いブリキ製の筆箱に何本かの鉛筆と消しゴムをいれて、ある日、学校に持って行きました。しかしその日も欠席していて渡すことができず、残念で寂しかったことを覚えています。

S君は2年生の時は欠席の方が多く、出席しても早く家に帰って手伝いをしなければならなかったもので、放課後ゆっくり話したり遊んだりすることはありませんでした。3年生になって別々のクラスになってからは会うこともなくなり、彼はある男子と喧嘩をして、その後全く学校に来なくな

りました。

当時は日本が終戦から未だ10年しか経っていない頃でどの家も貧しく、子どもの数は多かったのですが高校進学率は50%を切り、多くの友達が中学を卒業すると家計を助けるために集団就職で関西や関東へと郷里を離れていく時代でした。

手元のアルバムにS君と写った写真があります。担任の先生が転勤することになり、2年生の春休みに先生と10人ほどの生徒と一緒に”ラクテンチ”に遊びに行った時の写真です。先生が「ブリ、ブリ！」と面白いことを言って皆は笑ったのですが、S君だけは学生帽を目深にかぶってあさだ顔で写っています。その後、S君と会うことはなく今に至っています。

振り返ってみると、中学時代が人生で最も多感で、気が合う話せる友達を求めていた時期だと思います。S君に何度眺ね返されてもぶつかって行った時の、あのうれしい気持ちは今でも蘇ってきます。

困った時は

悩みや困りを抱えていない人は、ほとんどいないと思います。特に十代は、周りの状況次第でさまざまな「困り」を抱えるシーンが多くあります。そんなとき、一人で抱え込むのはとても苦しいことです。周りの人に相談しても簡単には解決できないこともあります。わかってもらえないこともあります。でも、実はな

んとかなるときも意外と多いんです。「早く相談していれば……」という台詞はテレビの中の言葉だけではありません。なんとなかならなくても、吐き出すことで気持ちは少し楽になります。

困った時は、誰でもいい、相談してみてください。。。

それも一つの「縁」です。

家族、友人、先輩、後輩、先生等々…12月の「相談だより」で紹介した相談機関にメールや電話で相談するのもアリです。いい意味で、「使えるものは使って」いきましょ！

……特に、「学校」を離れてしまう3年生のみなさんは、「困ったとき」はあなた方の母校にもなる「翔青高校」に連絡くれてもいいですよ！

